

かけはし



2023. 9. 28

すべての子どもが、
「おはよう」から「さようなら」まで、
安心して学べる比奈知小学校に

新学期が始まって、一か月が経ちました。「学校が始まる」ことに対する緊張感から精神的に不安定になったり、夜寝られなくなったり、体調をくずしたりすることもあるので、一人ひとりの子どもたちの様子を教職員全員で見守ってきました。徐々に子どもたちは、学校生活のリズムを取り戻してきているようです。これも家庭のご協力があったことだと感謝申し上げます。今後も子どもたちの家庭での様子を見守っていただければと思います。

学校改善に向けて

自分の命を守る
ためにはどうした
らよいか



◇◆◇ 1学期児童アンケート ◇◆◇

校長室だより「かけはし 8.31号」にて、1学期児童アンケート結果を報告いたしました。今回その結果をもとに報告いたします。

- * <学力向上の取組>に関しては、「授業はわかりやすい」93.2%（目標値90%）、「持ち物の準備や家庭学習を自主的にしている」91.6%（目標値90%）でした。「わかった」「できた」を味わえる授業づくりのため、授業の「ねらい」を明確にもち、一人ひとりの子どもの理解を確かめながら学習を進めます。また、家庭学習の内容を工夫し、保護者と協働し、家庭での学習習慣を定着させる取組を進めます。
- * <人権教育の充実>に関しては、「学校へ行くのが楽しい」86.0%、「自分にはよいところがある」83.0%（目標値85%）、「先生は自分のがんばりをみとめてくれる」94.9%でした。今後子どもの様子をしっかり観察して子どもの声に耳を傾ける、それを学校教育にどう生かすかということを考え、取り組んでいきます。
- * <キャリア教育の推進>に関しては、「進んであいさつをしている」92.9%、「時間いっぱい一生懸命そうじをしている」92.4%、「自分には将来の目標や夢がある」89.5%でした。キャリア・パスポートの活用を工夫しながら、今学期も、将来の夢や希望がもてる出会いの場を設定していきたいと考えます。
- * その他、「悩みごとがあったときには、気軽に先生に相談できる」78.0%、「本を読むのが好きである」76.2%でした。この結果を受け止め、引き続き、日記、生活綴り方、家庭訪問・連絡等を通して関わり、子ども理解に努め、子どもたちが互いのくらしや思いを知り合い、安心して過ごせる環境づくりに取り組んでまいります。また、「家庭における読書の時間(家読)」を提案したいと考えています。読書を通してコミュニケーションを図ることにより、家族の絆をつくることも、今後保護者の皆様と連携し取り組んでいきたいと考えています。

10月には学校運営協議会を開催して、取組と結果を示し、ご意見等をいただき改善へとつなげていきます。

人と人の「信頼」が不可欠であると感じたコロナ禍

誰もが想像もつかないことが起こり、今も収束はしておりませんが、コロナ禍という危機を乗り越える力は「信頼」に尽きると思いました。人が「安心」できるのは、人を「信頼」できるからこそ「安心」が生まれるものではないかなと考えます。教職員や子どもたち・保護者（サポーター）・地域の皆様にも伝えている「安心安全な学校を」というスローガンを、学校に行きたいという子どもの事実に戻すためには、学校に子どもが信頼できる「人」がいるということが大切です。失敗しても、できないことがあっても、困ったことがあっても、このことを伝える大人が学校にいるということです。このことは、子どもたちの学校アンケート項目；「先生は自分のがんばりをみとめてくれる」94.9%という結果から読み取れます。しかし、「悩みごとがあったときには、気軽に先生に相談できる」78.0%については、あまり高いとはいええない結果となりました。今後、相談しやすい雰囲気をつくるとともに、教育相談の場をもっていこうとも考えています。

「信頼」は、他者から与えられるものではなく、自分の意志で感じ取るものです。そこには自分の考えと判断・行動があります。人から与えられた信頼であるならば、人のせいにして終わることが往々にしてあるものです。自分で考え、判断し行動する中で、つながる人との関係性は、結果を問わず人のせいにする事なく、自分自身を高める力になります。

子どもたちの不安を安心に変えるためにも、「見えない学力：人を大切にする力、自分の考えをもつ力、自分を表現する力、チャレンジする力」を最優先にした学びを作っていく必要があると感じています。この4つの力をつけて大人になれば、危機的状況に遭遇した時であっても、何を最優先するのかがブレないで、人のせいにならない最善の策をなかまで見つけ出すことができるのではないかと考えます。

5年生が、田中区长さんをはじめ地域の方々
に鎌の使い方等を教えていただきながら、
稲刈りをしました。収穫したお米で12月学年
行事として『おにぎりパーティ』を計画していま
す。



～ 振り返ってみてください ～

保護者の方から「うちの子どもは、私が言うとなら『でも……』と言い返してきて素直に『はい』と言うことを聞かないんです」という話を聞きます。

これは一見すると、その子が指示に従わないというふうに見えてしまいます。しかし、「はい」と返事をした場合と、「でも」「だって」と言った場合とでは、どちらが大人と数多くやり取りができるでしょうか。

後者の方がたくさんやりとりができるのです。「でも」は、もっと「やりとりしてよ」のサインかもしれませんね。（星槎大学大学院 みたち まみ 教授より）

子どもたちの声に寄り添い、話し合うことで互いを理解することが大切であると思います。「対話」は信頼関係を築くためのコミュニケーションです。